

第4回埼玉県新型コロナウイルス感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和2年4月17日（金）18：30～20：30

2. 会場：知事公館中会議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院専門看護師

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

関本 建二 保健医療部長

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

5. 主な意見

ア 入院医療体制の確保について

- トータルの感染者数は今後も増えてくると思う。幅を持って受け入れ先を確保していかないとすぐにあふれてしまう。
- 受け入れ先は地域に偏りがないようにしないといけない。
- ここ最近、感染者数は急激に増加していると感じている。こうした状況下で、特に中等症を受け入れる施設が不足していると感じる。
- 病院の1フロアを新型コロナ専用にするれば、受け入れ可能な病床数の規模感が変わる可能性がある。県から医療機関に強く言っていただく必要がある。
- 病院まるごと新型コロナ専用にするべきとの意見もあるが無理があると思う。その場合、新型コロナ以外の患者への対応を近隣の医療機関にお願いする必要がある、その調整が非常に困難であると思う。

イ 宿泊療養・自宅療養について

- 発症初期の方は、できれば医療機関で経過を観察すべき。回復の兆候が見られたら、宿泊療養に移すべき。最初から宿泊施設に入れるのは、重症化の兆候を見逃すおそれがあるので、個人的には慎重に判断すべきと考える。
- 宿泊施設では、体温だけではなく、パルスオキシメーターを必ず用いて観察していく必要がある。
- PPE（個人用防護具）をしっかりと提供できる体制の構築が必要である。お金があってもモノがなければ手に入らない状態である。工夫してPPEを節約していくことも重要。

ウ ホワイト施設指定の考え方について

- 新型インフルエンザの時はあらゆる医療機関に患者が殺到した。ホワイト病院の外来に患者が殺到しないよう趣旨を徹底しておくことが必要である。
- 新型コロナの患者の透析を行う施設も必要だと思う。今後、中等症以上の透析患者の人の中から新型コロナの患者も出てくると思うので、中等症以上の新型コロナの治療もでき、透析もできる施設も確保しておくことが望ましい。